第３回福澤諭吉杯争奪全国学生辯論大会

審査規定

本大会は弁士の発表を以下の規定に従い、審査します。

【辯論】

本辯論大会の弁論の審査は説得度100点満点で行います。弁論とは説得活動であり、本辯論大会が求める弁論もまた説得力の高い弁論です。そのため、弁士には採点基準を満たす弁論ではなく、聴衆を説得する弁論を目指していただくべく採点基準を説得度100点満点で採点することとします。説得度は知識、論理性、声調態度などが基準となりますが、配点は行わず、審査員に一任します。

※弁士発表が打ち切られた場合は、打ち切り時点までをもって審査を行なうものとします。

【質疑応答】

質疑応答の採点は減点方式によって行ないます。

本辯論大会では弁士にはあくまで弁論による説得を目指していただくために、説得度にて採点をすることとしています。しかし質疑は説得のために弁士が行うものではなく、聴衆が自ら納得する ために行うものと考えます。そのため、質疑応答は弁士主導で行われないので、弁士の説得度に加点することは不適切であると考えます。しかし、質問に対する応答が不十分の場合は聴衆が納得することを阻害され、弁士自身の説得度が下がると考えられます。よって弁士の対応が、聴衆の納得に十分資するものであったかを測るために本辯論大会では質疑応答は減点方式によって採点します。具体的には辯論の部で獲得した点数から、以下の基準で合計0点~25点の幅で減点します。

・声調態度:弁士の声量が十分、かつ、回答が端的で聞き取りやすかったか。

・論理的一貫性:質疑の応答内容が、辯論内容と矛盾していないか。

・質問に対し、的確な回答をしていたか、質問者の質問の意図を理解し、質問に対し的確な回答を行えているか。

【自由時間】

本大会は3分間、弁士発表の最後に自由時間を与えます。自由時間は、弁論の焼き直し、弁論に対する思い、質疑の補足など様々な使途が想定されますが、使途は弁士に一任します。しかし、本辯論大会はあくまで説得活動の一環として「自由時間」を設けていますので、「自由時間」を経て、審査員の心境に変化があれば、それを質疑応答終了地点で「説得度」の点数を加点、もしくは減点します。

そして、全ての弁士の発表が終了した時点で、各弁士の点数を集計します。点数集計では、各審査員の点数に対し偏差値を導入し、算出された偏差値の平均値を求めます。そして最後に、算出された偏差値の平均点をもとに、弁士の順位を決定します。

【聴衆審査】

本辯論大会では、弁論の目的である、聴衆の説得にもっとも成功した弁士の栄誉を称えるべく、聴衆賞を設けます。それに際して、聴衆の方々にも弁士の審査を行っていただきたく思います。具体的には各団体の二名の代表者の方に審査を行っていただきます。聴衆審査は全弁士の弁論が終了した段階で、もっとも説得させられた弁士に対して、弁論の感想をそえて、記名投票を行っていただきます。自大学への投票は無効とします。審査の公平性のために、審査用紙は第一弁士の弁論が開始前までの配布とし、全弁士の弁論が終了した段階で回収いたします。 審査用紙を回収後、集計し、もっとも得票数の多かった弁士に聴衆賞を授与いたします。

尚、回収した審査用紙はレセプションにて弁士に配布させていただきます。